

デジタル版

広報 とやま



TOP INTERVIEW



大学生が聞く!

地元企業

トップインタビュー

富山市で働くって、
おもしろい。



大学生が
地元企業5社
をインタビュー
しました!!

富山市で働くことを考えるきっかけとして、富山大学の学生が
地域企業と市役所を訪問。トップへのインタビューや施設見学を行いました。
学生自身が感じたこと、驚いたこと、印象に残ったこと——。
学生ならではの目線で、地元企業のリアルな魅力を紹介します!



INTERVIEW

01



十全化学株式会社

薬のもととなる「原薬」を、富山でつくり続ける会社。研究段階の少量生産から、実際に販売する大きな量の製造まで手がけ、品質と安全を第一に、たしかな技術力で全国の製薬会社から厚い信頼を集めています。



Go to P.4



INTERVIEW

02



株式会社ウェブル

富山と東京を拠点に、ホームページ制作からシステム開発、DXやマーケティングのコンサルティングまで手がけるIT企業。Webにとどまらない幅広いサービスで、企業のデジタル活用を伴走型で支えています。



Go to P.6



INTERVIEW

03



富山市役所

富山市民の暮らしを支える市役所。まちづくりや福祉、環境、教育、産業振興など、担当する分野はとても幅広く、市民一人ひとりの毎日がより良くなるよう、さまざまな施策の企画から実行までを日々進めています。



Go to P.8



INTERVIEW

04



河上金物株式会社

明治18年創業、富山で建築・土木資材を扱う会社。ビルや橋、道路といった暮らしを支えるインフラの現場に、必要な鋼材や建築金物を届け続けてきました。「困ったときの金七さん」として、地域から長く信頼されています。



2027年9月竣工予定の新社屋

Go to P.10



INTERVIEW

05



正栄産業株式会社

「SHOEIの家」の名で、富山を中心に注文住宅を手がける会社。デザインと対話を大切にしながら、お客様の理想の暮らしを一緒に形にしています。家具や飲食、介護など暮らしに関わる事業を幅広く展開しています。



Go to P.12



INTERVIEW 01

📍 十全化学株式会社

富山にしながらグローバルに活躍
働きがいを尊重し、地方創生に貢献

MESSAGE

うまくいかないことは、
うまくいくための気づき。



代表取締役社長

HIROTA DAISUKE
廣田 大輔

事業内容を教えてください。

薬の効き目となる有効成分「原薬」をつくっています。製薬会社が実験室で少量つくったものを、同じ品質で大量生産できるようスケールアップするのが仕事です。「0を1にするというより、1を10、100にしていく仕事」。まだ開発段階の薬も多く扱っていて、お客さまと二人三脚で研究開発を支えることもあります。ラボでうまくいっても工場では違う反応が起きることが多く、そのトラブルを一つひとつ解決しながら安定供給する役割を担っています。

同業他社と比べての強みは何ですか。

医薬品は人の命に関わる規制産業で、査察も非常に厳しい業界です。当社は海外にも供給しているため、米国FDAの査察を過去7回パスしてきました。年間数

十件のスケールアップ案件をこなす中で蓄積した「工場に持っていくと、どこで問題が起きるか」というノウハウも、大きな強みです。

安全安心な管理の独自の方法は。

独自というより、レギュレーションを当たり前にきっちり守ること。医薬品は品質管理への要求が非常に厳しい業界です。2年前には完全に温度管理された倉庫を新設し、査察のたびに高い評価をいただいています。「守るべきところをしっかり守れる」というのが、お客さまからの一番の信頼につながっています。



楽天で経営に携わられた経験をどう生かしていますか。

本当にたくさんありますが、主に情報共有とKPI管理ですね。会社の状況や目指す方向を、年2回は従業員に直接説明する場を設けています。目標も、例えば「単語テストで100点を取る」なら、1週間後に70個覚えると決めて進捗を測るように、期限までに何をどこまで進めるかを具体的な数字に落とし込む。ゴールまでの自分の位置が見えるようにすることを大切にしています。



社長になってからのターニングポイントは。

3年前に建てたこの新社屋です。社員が自律的に楽しく働ける会社をつくりたいという思いを、形にする場になりました。



富山大学4年

小松 祐太

新社屋の建設や廣田塾と言われる話し合い、十全化学で働くために富山に行きたいと思わせる取り組みも、すべては廣田社長の「従業員を大切に作る心から」ということが伝わってきました。

富山大学1年

松本 武蔵

社員一人ひとりに寄り添い、チームで仕事に取り組む団結力には感銘を受けました。工夫された施設や定期的なイベントを通して、快適で働きやすい環境をつくる姿勢はとても魅力的でした。

私たちが
インタビューしました

た。前職の楽天では三食無料だったことにヒントを得て、カフェテリアの無料ランチもこの時に実現しました。富山駅からも徒歩圏内で、環水公園もすぐそばという立地は、特に県外から来た社員には好評です。

330名を超える社員教育でこだわっていることは。

半年に1回のメンター面談に加え、月1〜2回このカフェテリアで、「廣田さんに聞いてみよう」という10人規模の座談会を開いています。今年からは、会社の将来を担うメンバーを集めて未来について話し合う「廣田塾」もスタートしました。私は、細かい指示で人を動かす「マイクロマネジメント」は苦手で、自分で考えて動いてもらう方が、結局はちゃんとやってくれると思っています。うまくいかないことは、うまくいくための気づき。登山と同じで、頭で考えているだけでは見えなかった景色も、一歩ずつ進むと見えるものだと考えています。



今後のビジョンは。

近年は海外開拓にも力を入れていて、少しずつ実を結んできているので、さらに展開を広げていきたいと考えています。もう一つ大切にしているのは、「グローバルに活躍できる会社」が富山にある。だから富山に来る」という人を増やすこと。就職のとき、東京に行くか富山に残るかの選択で、多くの人が東京の会社を選びがちですが、実際には県外から十全化学に入社してくれる人が数多くいます。年収は東京の会社の方が高いこともありますが、生活コストを差し引いた「可処分所得」や、通勤に費やさずに済む「可処分時間」で見ると、富山での暮らしの方が豊かになることも多い。そういう地方でのライフスタイルの中で、働きがいのある会社を選びたいという人が増えるよう、地方の企業として頑張っていきたい。それが自分なりの地方創生だと思っています。

INTERVIEW

02

📍 株式会社ウェブル

自由な働き方とつながりを大切に
リモートワークで女性活躍の場を創出

MESSAGE

働くことが幸せな世の中をつくっていききたい。



代表取締役

MASUKO MEGUMI
増子 愛

事業内容を教えてください。

Web制作やシステム開発を通じて、お客様の事業課題を解決することが主な仕事です。作って終わりではなく、継続的に伴走支援するのが私たちのスタイルです。地域にとどまらず、東京をはじめ全国のお客様とのつながりも多く、伊豆のケーブルテレビ会社様では、100ページに及ぶサイトを、一度も訪問せずリモートだけで完成させた実績もあります。

同業他社と比べての強みは何ですか。

リモートワークは「コミュニケーションが薄くなる」と思われがちですが、うちは逆に「能動的に言語化する力」が鍛えられる働き方だと考えています。「30分以上、一人で悩まない!」というルールを設けて、必ず誰かに相談することを徹底しています。定期的なオンラインミーティング



を設けることで、話せる場をつくり、つながっているという安心感を大切にするようにしています。

AIで未来はどう変わりますか。

「U字カーブ」というモデルで説明するのですが、要件定義や品質のジャッジといった「最初と最後」の価値は上がり、コーディングなど真ん中の製造工程の価値は下がっていく。だからこそ、AIが作ったものの良し悪しを判断し、お客様の理想を言語化できる人の価値がこれからも大事になります。社員数を減らすのではなく、AIで生まれた時間を、お客様との対話や品質向上に使っていくことが大事だと考えています。

資格取得や学びの時間は
どうつくっていますか。

スタッフには、資格取得プラス、仕事



富山大学3年

明石 優大

一人ひとりが自分らしく働ける柔軟な環境が整っていて、「30分以上悩まない」というルールを取り入れることで、リモートでも支え合いながら気軽に相談できる環境はとても魅力的でした。

富山大学1年

杉井 亮太

増子社長の起業理由が、出社して働くことが難しい友達のためということに感動しました。会社を作り、そうした人たちのための居場所を作るという新しいコミュニティの形に好感を持ちました。

私たちが
インタビューしました

の周辺領域の自習を推奨しています。私自身、新卒で子どもを育てながら働いていた頃、家事育児の合間、寝かしつけ後の30分だけでも本を開くようにしていました。「学ぶことを諦めたくない」という思いが原点です。社員にも子育て世代が多いですが、寝かしつけの合間にデザインの参考を見たりと、それぞれのやり方で学び続けています。

「ウェブルさんが諦めずに伴走してくれたから諦めなかった」と言っていたことが、今でも忘れられません。

誰もが力を発揮できる働き方とは。

通勤時間がなくなるだけで、まるまる8時間力を発揮できる人がいます。学生時代、出産育児と両立のために大学のゼミにリモートで参加させてもらい、卒業論文を仕上げた経験が原点です。その後、正社員として働いても「子育て中だから」と過剰に配慮されたり、逆にフリーランスは社会保障がなかったり。

どちらも違うと感じ、フリーランス並みの自由さと、正社員としてのセーフティネットを両立できる会社をつくろうと決めました。最初の社員は、責任ある仕事から外されてしまう「マミートラック」に悩んでいた当時の同僚。「苦楽を共にやっていくから」という言葉に背中を押されて、会社を設立しました。

遠くにもチームで
いられる理由は。

メンバーは富山だけでなく、長崎や三重など全国各地にいます。年に数回、東京で全員が集まる交流会も開催しています。リモートだとチームの一体感が薄いと言われますが、うちはむしろ逆で、顔を合わせたことがなくても長く働き続けてくれるメンバーがたくさんいます。



今後のビジョンは。

リモートワークで活躍できる人を、雇用を通して増やすことと、「働くことが幸せな世の中づくり」に寄与することです。Web制作にとどまらず、採用支援や組織づくりにも領域を広げて、富山を出て行きたいと思っていた学生時代の自分のような人が、「こんな会社があるなら」と思える場所を作ること。富山を魅力的にする側の人間になりたいと思っています。



INTERVIEW 03

富山市役所

アイデアを積極採用し、スピード感を向上
市民が誇りを持てるまちづくりをめざす

MESSAGE

今日の自分よりも、
明日の自分が成長する。



富山市長

FUJII HIROHISA
藤井 裕久

市長の仕事を教えてください。

予算や政策の最終的なジャッジをすること、そして市役所という組織をどうマネジメントしていくか。これが市長の一番大きな役目です。人口減少や超高齢化が進むなかで、安全・安心で、誇りを持てるまちであり続けられるよう、持続可能性を考えることも大事な仕事です。

昨日は東京で国土交通省に要望活動、今朝も省庁を回ってから新幹線で先ほど戻ってきました。この後は、庁内で各部署と打ち合わせを行い、夜は上下水道の審議会に出席します。どんなに忙しくても、一日30分は勉強する時間に充てるようにしています。国際会議に出席する機会もあるので、英語も必ず勉強しています。ただ、朝早起きして、後輩の子どもとクワガタを捕りに行くなど、リフレッシュする時間もちゃんと取っていますよ。

市長から見る富山市の魅力は。

標高3000m級の立山連峰から水深1000mの富山湾まで、直線距離60kmほどで高低差4000m。これほどの地形は他にあまりありません。富山は、水の王国。豊かな地下水と表流水が農産物やお酒を育み、富山湾は「天然のいけす」と呼ばれ400種類以上の魚がとれます。この水を生かして製菓業が古くから発展してきました。人を思いやる市民性も、富山の誇りです。



人口減少対策として、どのような取り組みを行っていますか。

実は近年、富山市は転入超過なのです。ただ15～34歳、特に若い女性に限れば進学や就職を機に県外へ出て、富山に戻らないケースが多く見られます。だから、若者や女性に選ばれる企業を育てる、もしくは誘致することにも力を入れています。

大切にしているモットーは。

「やればできる」。中学2年の野球部の恩師からもらった言葉で、以来ずっと座右の銘にしています。甲子園には届きませんでしたが、当時誰よりも練習した充実感は今も自分を支えています。先日、「世界のホームラン王」で知られる王貞治さんと食事をご一緒した際、「今日の自分よりも、明日の自分が成長してなきゃダメだ」と話されていて、挑戦し続けることの大切さを改めて感じました。

スピード感のある政策を実現するためには。

「体育館を建てるか決めるだけで3年かかる」というのが役所の通例です。それではスピードが出ないため、各部局に500万円の裁量予算を持たせ、いちいち上の決裁を仰がなくても若手や女性職員が自分たちのアイデアをすぐ形にできる仕組みをつくりました。コロナ禍で牛乳が余った際は、職員の発案で銭湯や駅での無料配布をすぐを実施し、酪農家も加工会社も助かりました。

公共交通の拡充について。

富山地方鉄道不二越・上滝線について、国の鉄道事業再構築事業を活用しながらリニューアルにこれから着手します。大正時代につくられた駅が多いので、バリアフリーでパークアンドライドにも対応した駅に改良し、運行本数も見直す計画です。将来的にはAIオンデマンド交通や自動運転バスとの連携も見据えています。以前、富山大学の学生が構内まで乗り入れるルートを提案してくれたこともあり、そういう構想も大事にしていきたいと思っています。



職員との信頼関係で大切にしていることは。

失敗しても許すこと。それが大事だと思っています。責任は最終的に市長にあるので、思い切って任せています。今年から課長との懇談会を始めたのですが、若手や女性の声を直接聞く機会も増やしています。

富山大学生に期待することは。

富山大学は「知の塊」です。専門の先生のもとで優秀な学生が積み重ねる研究は、企業やまちづくりとタイアップすることで、新しい製品やサービス、市民サービスに結びついていきます。どの研究も無駄なことは一つもないので、一生懸命やってほしいです。

すでに市内の飲食店や企業では「富大生がいないと回らない」というのが実感としてあります。アルバイトを通じて社会勉強をしながら、地域の戦力になってくれています。しっかり富山大学で研鑽を積んで、卒業後は富山市に就職し、活躍してもらえたらと期待しています。



私たちが
インタビューしました



富山大学1年
碧音

藤井市長は「やればできる」を体現する方で、日々勉強を続ける姿勢がとても印象的でした。職員との対話や失敗を許す風土づくりからも、挑戦を促す組織づくりを感じることができました。

富山大学1年
大供 正周

スピード感を出すために、システムや条例を改正していく実行力が印象に残りました。また、ご自身の仕事をこなしながらも職員とのコミュニケーションを欠かさない姿勢に感銘を受けました。

富山大学大学院2年
遠山 大智

公務で忙しい市長という立場であっても、毎日読書をしたり、英語を勉強したり、移動の新幹線で市政の戦略を考えたりするなど、常に学び続ける姿勢を大切にしていることが印象的でした。

INTERVIEW 04

河上金物株式会社

魅力ある「人材」を育み、
地域のインフラを陰で支え続ける

MESSAGE

「あなたから買いたい」
と言われる人を育む。



代表取締役社長

KAWAKAMI MORI
河上 森

事業内容を教えてください。

創業は明治18年(1885年)、初代・河上彌三郎が始めた生活雑貨を扱う金物屋が始まりです。転機は戦後、富山市街地は空襲で99.5%の家屋が焼けましたが、まちの復興に欠かせない建物や道路をつくるための鉄鋼建材を扱うようになり、十数名だった社員が30年足らずで199名に成長しました。今は売上の7割が鉄鋼製品。建物やトンネル、橋など、暮らしを支えるインフラの現場に鋼材を届けています。

「システム建築」とはどんなものですか。

建物の部材をあらかじめパッケージ化し、プラモデルのように組み上げることで工期を短縮する建築手法です。材料費は大きく変わらなくても、工期が短くなれば人件費が減り、コストを下げられ

る。結果、お客様のためになる。私たちはメーカーとゼネコンをつなぐ役割を担っています。



地域の暮らしを支えるために大切にしていることは。

一つは、インフラを陰で支える仕事への誇りです。高速道路や鉄道は、当たり前に使えている間は誰も意識しません。歌舞伎で言えば黒子のさらに黒子的な存在だと考えています。もう一つは人の



富山大学3年

明石 優大

社員が長く働き続けられる会社づくりを大切にされていて、研修を通じて会社の考えを深く理解した上で入社を希望する人を採用している点に、圧倒的な離職率の低さの理由があると感じました。

富山大学1年

碧音

採用段階から丁寧に学生と向き合い、人材育成を重視する姿勢が印象的でした。立山登山など独自の研修を通じて人間力を育み、近年離職率0%を実現している点に魅力を感じました。

インタビューしました

私たちが

船を降りることはできません。だからこそ、目的地となる「会社の想い」に共感できるか、時間をかけて対話を重ねてから採用を決めています。2018年以降に採用した新卒社員の離職率はゼロです。

4泊5日の「立山登山」研修に込めた意図は。

新入社員が中学生を引率して山に登るのですが、自分より弱い立場の子がそばにいと、逃げ出せなくなる。登山はまさしく困難の象徴で、仲間と困難を乗り越える経験が人間力を育てると考えています。「百聞は一見に如かず」と言いますが、一つの体験は百の話を聞くことに勝る。毎年、泣いている新入社員もいますが、それが一番の思い出になっています。

“社内ルールのゆるさ”が保たれている理由は。

本当はルールなんて無い方がいいと思っています。弱い者いじめがダメなのは子どもでもわかること。ルールより、社員一人ひとりの道德心で良し悪しを判断できる集団でありたいという考えから、できるだけ細かなルールは設けないようにしています。

創業から変わらず大切にしている考え方は何ですか。

育成です。およそ130名の社員が立派な大人になることが、家庭にも良い影響を与え、地域に広がっていくと思っています。

選ばれる理由・強みは何ですか。

同じ商材はどの会社でも買えます。だからこそ、「あなたから買いたい」としてもらえる関係を築けるかが勝負です。10年続けるのも難しいと言われる中で、140年生き残ってこれたのは人から人へ想いをつないできたからだと自負しています。地域では「金七さん」の屋号で親しまれています。これからも、人に愛される企業でありたいと考えています。

採用で大切にしていることは。

会社を船に例えて話しています。乗組員として何をするかだけでなく、その船がどこに向かっているのか、目的地を知らずに乗る怖さを学生に伝えます。たとえ気が変わっても、太平洋の真ん中で

信用第一、信頼第一。そして聖徳太子の「和を以て貴しとなす」。これは仲良くしろという意味ではなく、立場の違いを認めた上で議論を尽くし、出た結論には力を合わせようという言葉です。最後は「商いは公事、会社は公器」。自分たちの利益のためだけでなく、地域に開かれた仕事であり、会社はそれを提供する場でありたいと思っています。



INTERVIEW

05

正栄産業株式会社

暮らしにまつわる事業を、幅広く展開
学んで成長する社員を、本気で応援

MESSAGE

文化的な楽しみが増えれば
地方はもっと魅力的になる。

代表取締役社長

森藤 正浩

MORITOH MASAHIRO

起業したきっかけは。

みなさんと同じ富山大学の学生時代に大手企業から内定をもらっていたのですが、いろいろな人と話すうちに、次第に建築の道を志すようになりました。早く社会に出て挑戦したいという気持ちも強かったので、建築の会社で基礎を学び、起業する道を選びました。

現在の事業内容を教えてください。

注文住宅の建築を柱に、インテリア、飲食、介護、人材派遣まで幅広く展開しています。企業の目的は長期的な利益を生み出すことで、社員やお客様、地域に還元すること。創業当時、富山県の新築件数は年7000件でしたが、人口減少で今は3800件ほど。住宅だけに頼らず、高齢化率35%の富山でできることを増やしてきたことで、成長してきました。

「世界に“ひとつ”の家」というコンセプトについて。

大手ハウスメーカーは安心感がある一方、選べる範囲に制約があります。私たちは年間200棟という規模だからこそ、大手の安心・性能・保証を保ちながら、設計事務所のようにお客様一人ひとりに合わせた家をつくることができます。その両方のいいところ取りができる規模感を大切にしています。

これからの住まいづくりで挑戦したいことは。

富山市山室のモデル展示場は、東京大学の研究室と共同で温熱環境データを取り続けている家です。断熱や日射のバランスを整え、エネルギー効率のいい家を追求しています。この事務所も太陽光と蓄電池、水力発電の電気だけで運営していて、CO2排出量は実質ゼロです。

地域とのつながりを大切にしている理由は。

地域が良くなければ、会社も良くなりません。地方は住みやすさ、働きやすさは都会よりも優れています。足りないのは仕事ではなく、コンサートやスポーツ観戦のような文化的な楽しみだと思っています。だから富山グラウジーズやカタールレ富山を応援しています。地域に誇りを持てるものを増やしていくことが、大切だと考えているんです。

社内の女性比率が高い背景は。

毎年300人ほどのインターン希望者からテストで選考しますが、男女は意識していません。ただ優秀な人を採用していくと、自然と女性が多くなりました。男性は大手志向が強い傾向がありますが、女性は自分らしく働ける環境を選ぶ

富山大学1年

大供 正周

社員同士のコミュニケーションの場を創出し、働きやすい環境づくりを心がけていると同時に、研修などを通して学べる環境があることで、みんながやりがいを感じられる会社だと感じました。

富山大学3年

明石 優大

独自性のある家づくりに加え、地方を活性化するために地域スポーツを応援する姿勢や、社員同士の良好な関係からも、地域や人を大切にする温かくて魅力的な会社だと感じました。

インタビューしました

私たちが

人が多い印象です。女性リーダーも会社ではたくさん活躍しています。

働きやすい環境づくりで大切にしていることは。

1日のうち一番いい時間を仕事に使うので、その時間を楽しいものにしたい。社内のコミュニケーションを大切にすることで、良いチームが生まれ、良い仕事が生まれると考えています。私が参加する飲み会は8人まで、というルールを設けて、全員で話せる場を定期的につくっています。予定はグループウェアで公開されていて、「社長と同行営業したい」と空き時間に書き込む若手社員もいます。

また、学んで成長できる環境をつくることを大事にしています。自由には責任が伴いますが、成長すればするほど自由も広がっていく。そのための研修費は惜しみません。

SNS発信で心がけていることは。

出演も編集も撮影も、基本的に自社のスタッフでやっている自社のYouTubeチャンネルは登録者1万人を超えました。これはコツコツと努力をしてきた結果だと思っています。SNSは努力がそのまま見える世界。中途半端にやるより、やると決めたらやる。そうした会社の方が信頼されると思っています。

富山で家を建てる魅力は。

駅まで歩いて行けて、川沿いの景色も楽しめて、この価格で家が建てられる場所は多くありません。天気は決して良くないけれど、北欧のような気候だからこそインテリアにお金をかけて家を楽しみたいという意識が生まれ、家で過ごす時間を大切にする文化が育っているのだと思います。



普段なかなか会うことのできない企業や行政のトップを訪ねて、感じたこと、考えたことを率直な言葉で振り返ります。

大供 正周／1年

働きやすい会社の特徴として、社員同士のコミュニケーションが活発であることが挙げられると感じました。トップに立つ人と直接話せる機会があることで、社員のモチベーションの向上に良い影響を与えていると思いました。また、富山という地方だからこそできることについて考え、地域に貢献をしながら好循環を生み出す。それが富山で働くうえで大切だと感じました。

明石 優大／3年

富山市を拠点としながら東京や海外へも出張できるというお話を伺い、働く場所としての富山市の魅力についても考える機会となりました。インタビューを通じて出会った企業も独自の魅力や考えを持つ素敵な企業ばかりでした。今回得た気づきを就職活動に活かし、読者の皆様にも富山の企業にもっと興味を持ってもらいたいです。

地元企業で働くことは、地域の人々とのつながりを感じながら、自分の仕事が進むの発展に直接つながっていく魅力があると感じます。富山市で働くことを考える際には、企業の規模だけでなく、地域との関わりや企業が大切にしている価値にも目を向けてほしいです。

松本 武蔵／1年

富山県は、“地方”や“田舎”と言われがちな場所ですが、化学産業の観点からすれば先進的なまちではないかと感じました。取材に伺った十全化学さんは、「十全があるから富山で働きたい」と思って貰えるような企業を目指していて、富山にも東京や大阪を上回る何かがあるかもしれないということを考えてみてほしいと思いました。

小松 祐太／4年

学生の学びや研究が地域の発展、市内経済の活性化につながっていると聞き、普段何気なく取り組んでいる勉強や課外活動も、地域とつながっていることに気づきました。学生一人ひとりの活動が地域の力になる。そう実感できる機会が増えることで富山市への愛着も深まり、卒業後も富山市を訪れたり、暮らしたりすることが、将来の選択肢の一つになっていけばよいと思いました。

遠山 大智／大学院2年

富山市には魅力的な企業が多くあるけれど、その多くは学生に知られていません。企業の魅力はやはりその経営者とのお話でしか深く理解し得ないと感じました。富山の若者の流出を防ぐのならば、若者が魅力的な企業の経営者に会うことがとても大切だと思います。一歩踏み出すタイミングと勇気があれば、社会は思っているよりも身近なものであると感じました。

杉井 亮太／1年

富山の企業や行政の方々が若い世代の成長を本気で考え、働く環境をより良くしようとしている姿勢は、新鮮で大きな刺激になりました。自分の力が誰かの生活や地域の未来につながる働き方には、とても魅力があると思います。進路を考える私たちの世代は、こうした地域で働く選択をするのも良いのではないのでしょうか。

碧音／1年

大学生が聞く!地元企業トップインタビュー ～富山市で働くって、おもしろい。～

〔編集・発行〕富山市 〒930-8510 富山県富山市新桜町7番38号
企画管理部広報課 電話番号:076-443-2012

〔ホームページ〕<https://www.city.toyama.lg.jp/>
富山市LINE公式アカウントの友だち追加はこちら→

